

<組合員の皆さまへ重要なお知らせ>

これまでの放射能自主測定に加えて、
新たにトリチウムのモニタリング検査を開始します

2023年9月18日

生活協同組合 あいコープみやぎ・ふくしま

あいコープでは、2011年3月に発生した東日本大震災・東京電力福島第一原発事故以降、食の安全確保を目的に、食品の放射能自主測定を実施してまいりました。原発事故から12年が経過した今も放射性物質の検査を継続し、これまで1万3千件を超える検査の実施とその結果を組合員の皆様に公表してまいりました。

一方、政府は2023年8月24日、東京電力福島第一原発のトリチウムを含むALPS処理水の海洋放出を開始しました。国民の理解醸成が不十分ななか、漁業者の反対も無視するかたちで海洋放出を判断した国の対応は誠に遺憾です。ALPS処理水による海洋汚染はもとより、水産物への風評被害をまねくことが危惧されることから、あいコープではトリチウムの検査を行う準備を進めてまいりました。

しかしながらトリチウムの検査について、現在一般の検査を受け入れている検査機関が限られ、その検査体制は万全とは言い切れない状況です。また、検査に要する日数やその検査費用も高額であることから、全ての水産商品を検査することは現実的ではありませんが、可能な限り利用の高い商品を中心に検査を実施してまいりたいと考えております。現時点では、23年度は9月以降、以下の条件で検査を進める予定です。

▼検査対象

- ・ALPS処理水が海洋放出された（2023年8月24日）以降に、三陸から茨城以北の海域で漁獲された水産物

▼検査手法

- ・迅速分析（おおよそ2日で分析可能）

※「精密分析」は高額な検査費用に加え、分析に日数を要するため、「迅速分析」を選択しました。

▼検査開始時期

- ・2023年9月以降

▼検体数（予定）

- ・原魚10検体 or 製品20検体 以上（年間）

▼あいコープ自主基準（※暫定値）

- ・30Bq/kg 未満

※現在、日本では食品・飲料水のトリチウムに関する規制基準はありません。飲料水における基準として、世界保健機構（WHO）では10,000Bq/kg、EUでは100Bq/kgに設定されています。

※検体数や自主基準値については、今後の検査機関の受け入れ体制等をみて、見直す場合があります。

あいコープは、豊かな海と自然環境を守るため、これ以上の放射性物質の拡散に反対します。今後も組合員の皆さんとともに、国に対してALPS処理水の海洋放出に反対と中止を求める声を上げてまいります。

本件に関しては、まだ先の見えない状況が続いておりますが、情報を把握しながら他の生協や関係機関などとも連携し、漁業者に寄り添い、組合員の皆さんに商品を安心して利用してもらえるように、できる限りの検査を実施してまいりたいと考えております。引き続き、ご理解ご協力のほど、宜しくお願い致します。

以上